

多文化共生の学校づくり

～ 横浜市の挑戦 ～

日本の公立学校で学ぶ外国人児童生徒は約8万人で、そのうち3万4000人が日本語指導を必要としている。その4分の1が日本語指導を受けていない。横浜市では、2017年度に、日本語指導を集中的に行う拠点施設「ひまわり」を設置した。また、学校と地域が連携して、外国につながる子どもをサポートしている。

本講義では、行政、学校、地域という多様な観点から多文化共生をめざした学校づくりの現状と課題について、横浜市を事例に論じる。

日時：2019年6月12日(水)17:10-19:00

会場：明治大学中野キャンパス ホール(5階)

講師：甘粕亜矢 横浜市保育・教育人材課長

服部信雄 東京学芸大学特命教授

木村博之 横浜市国際交流協会事務局担当次長

討論者：佐藤郡衛 国際日本学部特任教授

モデレータ：山脇啓造 国際日本学部教授



甘粕亜矢：横浜市子育て支援部保育・教育人材課長。放課後児童育成課、教育委員会政策推進課を経て、2015年に教育委員会の初代国際教育課長に着任。2018年4月より現職。

服部信雄：東京学芸大学教職大学院特命教授。横浜市立いちよう小学校長、元町小学校長、横浜市教育センター授業改善支援課長、西部学校教育事務所長等を経て現職。横浜市教委各種研修会講師を兼任。

木村博之：横浜市国際交流協会事務局担当次長。横浜市中区、鶴見区、南区の外国人集住3区の国際交流ラウンジの統括責任者として、外国につながる若者の支援他の多文化共生事業を担当。

主催：明治大学大学院国際日本学研究所